

# だいでず配布系統「関東 113 号」

作物研究所 大豆育種研究チーム

## 1. 来歴

系統名	旧系統名	世代	交配年次	組合せ		主要育種目標
				母	父	
関東113号 (作交0010-P-P-P-11-1-2-4)	作系48号	F9	H12	ALA60	フクユタカ	高蛋白、多収、耐倒伏性、豆腐用

注 世代は平成21年度における世代。

## 2. 特性

サチユタカよりやや遅くフクユタカ並みの晩生。中粒の大きに属し、粗蛋白質含有率はフクユタカ並。主茎長はタチナガハより高く、最下着莢節位高はタチナガハよりも高い。子実収量はサチユタカよりもやや少ない。

系統名	花色	主茎長	最下着莢位置高	成熟期	粒の特性				粗淡白含有率
					粒大	粒形	種皮色	臍色	
関東113号	紫	中	高	晩	中の大	扁球	黄白	淡褐	高

## 3. 配付予定地

関東 113 号：南関東、東海、近畿、中国、四国

## 4. 育成地における試験成績（平成 20 年）

品種・系統	成熟期 月・日	主茎長 cm	分枝数	最下着莢位置高	倒伏	青立	収量 kg/a	標準対比	百粒重 g	紫斑	褐斑	裂皮	品質	粗蛋白 %
関東113号	11.01	55	7.4	15.7	微	微	38.7	95	28.2	微	少	無	中中	44.1
サチユタカ	10.29	49	6.0	13.2	微	微	40.7	100	33.8	微	微	微	中上	46.0
タマホマレ	11.08	61	5.6	15.7	少	微	37.3	92	30.7	少	少	中	中下	42.0
フクユタカ	11.10	74	5.1	17.9	微	微	41.8	103	31.8	少	少	少	中中	44.4

6月25日播種

栽植密度：株間13cm、畦間70cm、1株2本立て。

子実収量、百粒重は水分15.0%換算。

粗タンパク質含有率は近赤外分光分析法による。窒素タンパク質変換係数6.25。無水。

5. 系統適応性検定試験地の成績

試験場所名	系統の評価			標準品種
	年次		20年度の対標比	
	19	20		
愛知農総試		△	61	フクユタカ
三重伊賀		◇	113	フクユタカ
佐賀農研セ		△	79	フクユタカ
福岡豊前		△	94	フクユタカ
福岡農試	◇			フクユタカ
九沖農研	○	◎	103	フクユタカ

注 概評 ◎:有望、○:やや有望、◇:再検討、△:やや劣る、×:劣る  
 表中の数字は子実収量の標準品種対比(%)。